慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	小金井博士の人類學研究を讀む(一)
Sub Title	
Author	長谷部, 言人(Hasebe, Kotondo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1926
Jtitle	史学 Vol.5, No.3 (1926. 7) ,p.108(414)- 108(414)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19260700-0108

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

小金井博士の人類學研究を讀む（一）

長谷部言人

人類學は普通これを身性及び心性人類學に分ち、或はかれを人類學、之を民族學とも呼ぶ。身性人類學は、身體及びその各部の形態機能に基いて、人類及びその集團の變遷を論じ、その研究方法は全く解剖及び生理學に準じ、後者等の發達に伴うて、研究題目は多岐に亙り、すでに、幾多の別派と目すべき學問をさへ生じてゐる。例へば刑事人類學、優生學、人類衞生學、人種生物學、家族人類學、社會衞生學、社會人類學、政治人類學などゝ稱せらるるものは、要するに制限された人類學に過ぎないので、本來の身性人類學は、時、處、集團の如何に何等の制限を設けず、もとより心性を顧慮せざる如き不具なものではない。但しこの制限はむしろ材料の方から餘儀なくされ、從つて骨骼及び生體そのまゝの形態的研究が最も行はれたのである。

人類學書の多くは、植民政策乃至進化論普及時代に成り、勢ひ諸人種の記載や、洪積世人類遺殘の解說に力を注ぎ、これ等の方面の一般知識を與ふるには適當だが、日本人及びわが國土內諸民族の身性に關する記述には缺陷誤謬多く、わが邦學者の研究業績を參照するに勝るはない。然るにこれ等の業績はおほむね內外諸雜誌に揭載され、東京恐らくは京都を除く他の都市において、これを通讀することは不可能である。文學的の著述ならば、何某全集などゝ個人の業績を纏めたものも數々あるが、學術的論文だと購讀者の少きを惧れてか、記念事業の他に斯る企は先づなかつたと思ふ。近來この缺陷を補はんとする傾向が漸く起つて來たのは甚だ喜ぶべく、殊に研究に從事するものゝ斯る個人論文集の恩惠を被ることは大なるに相違ない。この點においてわが國人類學の耆宿、小金井良精博士著「人類學研究」の出版は、わが邦人類學界における一大福音である。……